

21世紀の日本のかたち（106）

地域学（6）

国際都市・新宿の未来図



戸沼幸市

<（一財）日本開発構想研究所 代表理事>

1. 新宿区都市マスタープラン（2018～2028）

国際都市新宿

“暮らしとにぎわいの交流創造都市”は、2007年に策定された新宿区の都市マスタープランの標語です。今回、2018年にスタートする新・新宿都市マスタープランは、これまでの標語を受け継ぎつつ新宿区が一段と国際色を高めていくことを想定し“国際都市・Shinjuku”を創っていくとしております。

現在、住民の1割を超える130カ国以上からの外国人（4.2万人）が居住し、昼間、新宿で働く外国人はこれに倍する数に及んでおります。加えて外国人観光客—中国、韓国、その他のアジア諸国、欧米人他は大きな数になります。

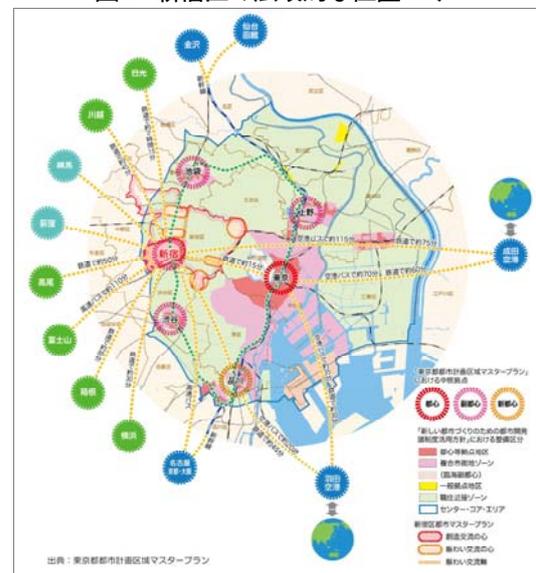
新宿区内にある大学には大勢の外国人留学生がおります（早稲田大学は4,000人以上、将来的には8,000人を目指すとしています。）。

世界中からアスリートの集まる2020年の東京オリンピック・パラリンピックは、新宿の新国立競技場が主会場です。今やグローバルネットワークの結節空間としての東京の新都心、新宿の国際化はいわば未来からのインパクト、これを受けて“国際都市・Shinjuku”は新宿区の未来への構えとも受け取れます。

新宿区の広域的な位置付け

関連計画である東京都策定の「都市づくりのグランドデザイン」や「東京都都市計画区域マスタープラン」における新宿区の位置づけ、特に広域的な交通ネットワークを踏まえながら“国際都市新宿”として、今後さらに世界大の集客力を持つ新宿の強みを活かし、新宿の文化や活力を世界へと積極的に発信していくことが求められています。

図1 新宿区の広域的な位置づけ



出典：『新宿区まちづくり長期計画 都市マスタープラン』

新宿・都市マスタープランの骨子

新宿区のまちづくり長期計画として位置づけられる都市マスタープランの骨子は次のよ

うなものです。

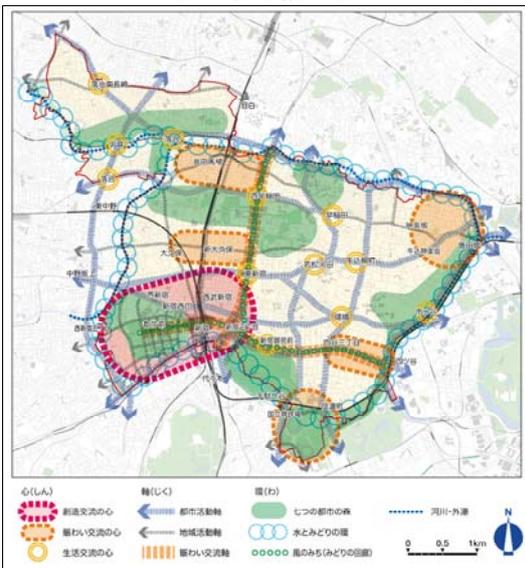
第1章 めざす都市の骨格

1. 将来の都市像 暮らしと賑わいの交流創造都市
2. めざす都市の骨格の考え方
 - (1) 新宿に蓄積されてきた多様性を活かしていく
 - (2) まちの記憶を活かし、次世代に引き継いでいく
 - (3) 地域の個性を活かし、区民が誇りと愛着をもてる新宿を創っていく
 - (4) 災害に強い高度な防災機能を備えた新宿を創っていく
 - (5) 世界とつながる国際都市“Shinjuku”を創っていく
3. 将来の都市構造

将来的な都市機能や都市施設等の基本的な骨格を都市構造とし、賑わいと交流を先導する地区を「心(しん)」、高い都市活動を支える幹線道路やその沿道を「軸(じく)」、都市に潤いを与える水辺やみどりのつながりを「環(わ)」と位置づける。

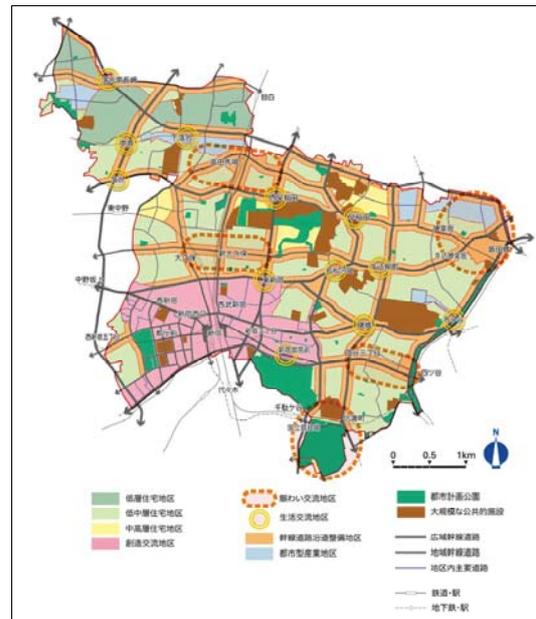
- (1) 「心(しん)」
 - ① 創造交流の心
 - ② 賑わい交流の心
 - ③ 生活交流の心
- (2) 「軸(じく)」
 - ① 都市活動軸
 - ② 地域活動軸
 - ③ 賑わい交流軸
- (3) 「環(わ)」
 - ① 七つの都市の森
 - ② 水とみどりの環
 - ③ 風のみち(みどりの回廊)

図2 都市構造図



出典:『新宿区まちづくり長期計画 都市マスタープラン』

図3 まちづくり方針図(土地利用方針図)



出典:『新宿区まちづくり長期計画 都市マスタープラン』

図4 まちづくり方針図(環境に配慮したまちづくり方針図)



出典:『新宿区まちづくり長期計画 都市マスタープラン』

地域別まちづくり方針と地域区分

地域別まちづくり方針は地域の課題に応じて地域のより詳細なまちづくりの方針を示すものです。地域別まちづくり方針は、住民が身近に感じることのできる日常の生活範囲として、特別出張所の所管区域を基本とし、新宿区全体を10の地域に区分しています。

表1 地域別まちづくり方針

地域	まちづくりの方針
1. 四谷地域	歴史と文化の香りあふれ、多くの人が集う夢のまち
2. 笹塚地域	坂と水 歴史を綴る 粋なまち 笹塚
3. 榎地域	今も昔も文化と活力のあるまち 早稲田
4. 若松地域	誰にもやさしい元気のあるまち
5. 大久保地域	つつじのさと 大久保 一人にやさしい多文化共生のまち
6. 戸塚地域	心豊かに集う、文化と福祉と若者のまち
7. 落合第一地域	ともにつくるみどり豊かで安心なまち
8. 落合第二地域	住みつづけられるみどり豊かなまち 落合
9. 柏木地域	一輝く国際都市の眺め、歴史と新たな文化が息づく、やすらぎの暮らし 住みたくなるまち 柏木
10. 新宿駅周辺地域	人を魅せる活力と文化の薫りあふれる環(わ)のまち

出典:『新宿区まちづくり長期計画 都市マスタープラン』

図5 地域の区分



出典:『新宿区まちづくり長期計画 都市マスタープラン』

2. 流動社会のコミュニティ論-新宿区コミュニティ概念図

新宿区都市マスタープランの資料として、都市コミュニティ概念図が創案されています。これは在来の小学校区をベースにした近隣住区論を見直し、現在、新宿が当面している国際化や、新宿区内のダイナミックな人々の流動、動態をも読み込んだ都市コミュニティを図化したものです。

新宿区は東京都23区のほぼ中央部に位置し、固有な地理・地形を持ち、面積18.22km²の区域ですが、ここに展開されている都市活動は極めて動的で、夜間人口33.8万人

(2017年)のうち、外国人4.1万人、昼間人口は80万人(2010年)。

新宿区内には大量の人間が乗降する主要駅があり、特に新宿駅(7路線)は1日370万人と群を抜いて世界一です。その他、高田馬場駅(3路線)91万人、四ツ谷駅(3路線)31万人、市ヶ谷駅(4路線)36万人、飯田橋駅(5路線)41万人を数えます。これら主要駅の乗り換え空間には様々な商業施設が入り込んで、人の滞留(よどみ)空間ともなっております。これは現代都市コミュニティの典型です。

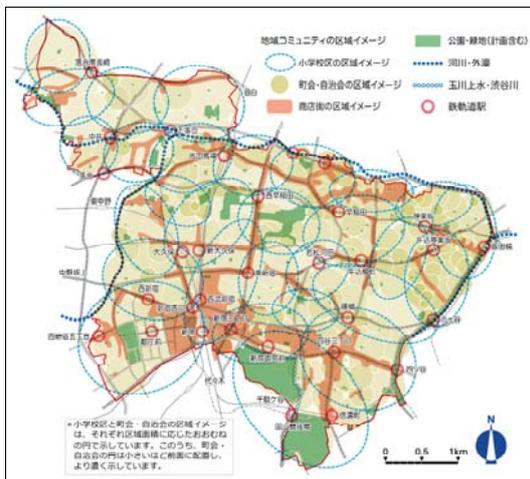
新宿区内の業務空間、新宿西口の超高層建築の中で営まれている会社、職場の親和的生活実態は多分にコミュニティ的です。まち中の賑やかな商店街での買い物客を含む人々の滞留も、都市コミュニティの一つの典型に思えます。新宿区内には地域に密着した数多くの歴史のある商店振興組合があり、活発に活動しております。商空間でいえば、住宅地域にあるスーパーマーケットは地域コミュニティの一つの核にちがいません。

新宿区内にはまた数多くの大学や専修学校があり、例えば早稲田大学などは数万人の学生がおります。あるいは病院、大病院などには日々大勢の人々が滞留しております。

少子高齢化時代、皮肉にもかつて地域社会の中心であった学校、小学校が減少していく事態が起こっており、小学校区をベースとした近隣住区論の見直しが迫られている昨今です。

いずれにしろ、地域において人々の住み・働き・遊び・往来する地域コミュニティの安全・安心の確保は、都市計画、都市マスタープランの中心的命題です。災害時における住民や働く人、来街者の避難行動などへの多様な空間的受け止めや、事前復興（万一災害が起こった時を想定した時の復興の手順をあらかじめ用意しておく）の資料として、都市コミュニティ図は有用なものと考えます。今度、新宿区都市マスタープランに示したコミュニティ図は、私ども都市マス検討会のコミュニティ論からの創案です。

図6 都市コミュニティ概念図



出典:『新宿区まちづくり長期計画 都市マスタープラン』

3. 地域（地区）計画-新宿駅周辺地域計画

地域別まちづくり方針は、新宿区内を歴史と地理・地形から10地域-四谷・笹塚・榎・若松・大久保・戸塚・落合第一・第二・柏木そして新宿駅周辺地域-に区分し、都市マスタープラン及びまちづくり戦略プランにおいて、それぞれに課題を整理しつつ、目標を定め実施計画を策定したものです。これらの10地域の中でも新宿区において最も変動の大きい、新宿駅周辺地域のまちづくりについて、昨今の議論に私見を交えて紹介しておきます。

新宿駅周辺地域計画

7線8駅が結節する世界一の乗降客数およそ370万人を誇る新宿駅では、公共交通の利便性はさらに高まり、東急東横線と副都心線の相互直通運転の開始、バスタ新宿の開業など、より多様で広範囲な方面へのアクセスが可能となりました。また、近年は訪日外国人がさらに多く訪れるまちとなりました。

現状と課題

- ・商業・娯楽・業務・宿泊・居住機能等が、それぞれのエリアに分かれて高度に集積していますが、相乗効果が十分発揮されていないため、各エリアの特色を活かしながら、連携・交流を高めるまちづくりが必要です。
- ・商業施設の老朽化やオフィスの機能性不足など、競争力が低下しつつあるため、商業機能の更新、高規格オフィス機能・業務支援機能の導入が必要です。
- ・鉄道で東西が分断され、多層間にわたる歩行者ネットワークで、利用者に分かりにくい状況にあるため、まちの回遊性や快適性を高める歩行者中心の基盤整備への転換が必要です。

「新宿駅周辺地域まちづくりガイドライン」による将来像

世界に注目され、誰もが自由に行き交う国際集客都市～世界と日本をつなぐ回遊都市へ～

- ・誰もが快適に回遊できる 人中心のまち
- ・国内・海外からの注目を惹きつけ、様々な文化や賑わいが交差する国際観光商業都市
- ・多様な機能の集積が魅力的なワークスタイル・ライフスタイルを提供するまち

新宿駅周辺地域の5つのエリア

歌舞伎町エリア、新宿駅東口エリア、新宿駅直近エリア、新宿西口エリア、十二社通り・青梅街道周辺エリア。

図7 新宿駅周辺地区 地区図



出典:『新宿区まちづくり長期計画 まちづくり戦略プラン』

歌舞伎町エリア-歌舞伎町ルネッサンス

新宿・歌舞伎町計画は戦災復興の見事な事例として特筆されますが、戦後70年を経て再開発の機運が高まっています。

先に、くるくる回る舞台で一世を風靡したコマ劇場が、新ゴジラを棟頭に載せた映画館とホテルに建て替わりました。合わせてセントラルロードとシネシティ広場の整備が進んでいます。

そして現在、数々の映画を上映してきたミラノ座が取り壊され、劇場とライブハウスを備えたホテルの建設が進んでいます。

歌舞伎町はバブル崩壊後、いちじるしく治安が悪化した状態になりましたが、行政と民間が一体となり、歌舞伎町ルネッサンス協議会を2005年に立ち上げ、市民や来街者が健全に楽しめる繁華街にするべく取り組んでいます。まさに戦後、焼け跡に再興した鈴木喜兵衛や石川栄耀たち、まちの人々が創り上げた街の再生、歌舞伎町のルネッサンスに取り組んでいる図です。

十二社通り・青梅街道周辺エリア-災害に強く利便性の高い都心居住整備の推進

このエリアは在来の木造密集住居地が広がっているエリアですが、最近、共同建て替え、不燃化、超高層住宅の建設が盛んになりつつあります。都心の居住にふさわしい公園や緑地などの環境面に配慮した計画づくりが求められています。

新宿駅直近エリア・新宿駅西口・東口エリア 新宿シャッセリゼ計画-新宿研究会の提案

新宿区は南北を走る山手線などによって東西に分断されています。東側地区は江戸以来の街の集積・歴史があり、大きな緑、新宿御苑があります。これに対して西側地区は、東京都庁をはじめ日本初の超高層建築群があり、緑の文化交流拠点として新宿中央公園があります。

新宿は今や世界の乗降客、1日370万人の新宿駅を持つ世界都市東京の新都心です。新宿21世紀プランとして旧態依然とした新宿駅の構造も変わるべき時です。端的には新宿駅の上部に全面的に人工地盤を造り公園とすべしです。これについては長年にわたる東口、西口商店街関係者の悲願でもあります。

今回、ようやく新宿都市マスタープランに「新宿駅東西自由通路（地下）とともに賑わい交流軸の結節空間として、新宿駅上部空間などの活用について検討する」ことが明記されました。

新宿駅上部空間の緑・公園要素をもつ人工地盤計画については「新宿研究会」の長年の研究提案があります。

「新宿御苑から新宿大通り、新宿駅を経て、西新宿の中央通り、新宿中央公園に至るルー

トを設定し、この道を“緑のプロムナード”として大きな街路樹のあるゆったりとした歩行者空間とする構想、提案です。なかでも「東口界限においては、新宿駅東口から新宿三丁目までの新宿通りを、歩行者の道-トランジットモール化することを提案」しています。「パリのシャンゼリゼ、ベルリンのウンターデンリンデンなど、海外の著名な街路にも引けを取らない風格のあるシンボルストリートとしたい」というのが提案者の願いです。

図8 新宿駅周辺地域のまちの構造
(拠点と軸を形成するまちの骨格)



出典:『新宿区まちづくり長期計画 まちづくり戦略プラン』

図9 新宿の東西をつなぐ緑の軸
(新宿研究会作成)



出典:『新宿学』

図10 新宿未来図
新宿駅の線路上空に多層の人工地盤を架け、駅前広場と一体化する構想 (「新宿研究会」原案)



出典:『新宿学』口絵

図11 新宿未来図
新宿大通りのモール化 (「新宿研究会」原案)



出典:『新宿学』口絵

*新宿研究会:2004年設立、会長:戸沼幸市(当時)、顧問:白井克彦 早稲田大学総長(当時)、顧問:中山弘子新宿区長(当時)、会員は新宿区の大学などの研究者、商店街の諸氏など。現在、会長:吉田拓生。新宿イースト協議会と連携して、市民参加のタウンマネジメントをめざして活動中。

4. 新宿の歴史と未来図-21世紀の新宿の私たち2050

今回の「新宿区都市マスタープラン 2018～2028」は、現在新宿区が当面している課題への対応といった面が強いものです。しかし現在、新宿区に多い覆いかぶさるような未来か

らの衝撃は様々な形の国際化、AIなど情報革命による多面的な都市への影響、首都直下型地震への対応など極めて大きなものであり、少なくとも今世紀前半、2050年においても安定した状態になるかは定かではありません。

今回の新宿都市マスタープランの掲げるプロジェクト、新宿駅改造計画といったものも、構想を広げれば2030年を越えて今世紀前半、2050年あたりまでの時間を要することでしょう。

新宿、武蔵野の大地に芽吹き続ける前衛都市

新宿は21世紀都市文明の先端を走っているように見える。・・・

400年前の内藤新宿以来、近現代の大ターミナルとなった新宿は、世界的に人と物と金と情報を集める、現代都市文明のメガプラットフォーム(巨大な結節空間)をつくり出した。そしてその根底を支えたのが、武蔵野の大地であった。・・・この大地に長大な時間を経て、新宿の400年、近世、近現代史が花咲いたことになる。

・・・近未来に予想される自然の大変動、首都直下地震についても、改めて備えを固めつつあるが、この筋書きは、幾度もの災害を乗り越え、前衛的に都市づくりをしてきた新宿400年の歴史の中にDNAとして埋め込まれている。そして各所に親和的な大小様々な出会いの場をつくり出してきた。生と死、愛と死を包む懐の深い生命の網の目社会、時代の大状況を取り込みつつ、活気あり親密な生命の躍動する都市こそ、持続すべき新宿の未来図と考えたい。現代の先端的都市文明も取り込みつつ、自然と共生するエコポリス、ここに集まる人々の豊かさ、生活様式、つま

りは「都市文化」といったものを持続・再創造するのである。

遠い昔、武蔵野台地に芽吹いた新宿のまちが、これからの四半世紀、半世紀、21世紀中、混然としてダイナミックに世界を受け入れて進展していくことを願いたい。

『新宿学』新宿の未来図 戸沼幸市編著より

◆追記

新宿区都市マスタープランと私との関わりは、都市計画審議会長として、前都市マスタープラン(中山弘子前区長)につづいて、吉住健一区長よりこれらの策定についての諮問を受けたことによるものです。2017年12月、ようやく成案を得て区長に答申しましたが、この間、区民、関係事業者他、多方面の方々の協力、意見を得ての成果です。

具体的に都市マスタープランの取りまとめにあたった、中川義英検討部会長はじめ、都市計画審議会委員の方々、そして行政、事務局職員の方々の力によって、区長からの諮問に答えることができました。

今回の私のレポートは、「新宿区都市マスタープラン(2018~2028)」の時間的制約を超えた視点・視野で、私見を述べたものであり、都市マスタープランについては新宿区のホームページなどを見ていただければ幸いです。

写真1 都市計画審議会戸沼幸市会長から
吉住健一区長への骨子答申



写真2 審議風景



【参考文献】

- 1) 『新宿区まちづくり長期計画 都市マスタープラン』平成29年12月、新宿区
- 2) 『新宿区まちづくり長期計画 まちづくり戦略プラン』平成29年12月、新宿区
- 3) 『新宿学』平成25年2月、戸沼幸市編著、紀伊國屋書店

(2018.01.25)